

授業科目名： 海外演習 A (岩手大学)		単位数 1 単位	担当教員名： 教授・准教授
			担当形態： 単独
配当年次： 1・2・3・4 年次前期・ 後期	授業形態： 演習科目		開講形態： 岩手大学独自開講
授業のテーマ及び到達目標： 外国語によるプレゼンテーションの作成、実施及び質疑応答を通じて国際的に活躍する獣医師としての基盤を形成することを到達目標とする。			
授業の概要： 渡航期間が 1 週間程度の海外における国際学会等に参加し、発表することを通じて外国語によるプレゼンテーションを学び、国際的なコミュニケーション力を研鑽する。			
授業計画： 渡航期間が 3 日～7 日程度となる海外における国際学会に参加する。主指導教員の指導の下、外国語によるプレゼンテーションの作成、実施及び質疑応答を行い、これらを通じて国際的に活躍する獣医師としての基盤を形成する。 すなわち、主指導教員の指導の下、以下のことを学ぶ <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国語による学会発表要旨の作成と、学会参加の手続き ・ 外国語によるプレゼンテーション及び発表原稿の作成 ・ 外国語によるプレゼンテーションの実施と質疑応答 ・ 外国語による他者のプレゼンテーションに対する質疑応答 ・ 外国語による座長の進行 (板垣 匡) 獣医寄生虫学、分類、形態、疫学、分子系統 (宇塚 雄次) 獣医神経病学、画像診断、獣医麻酔学、獣医放射線治療、環境放射線 (岡田 啓司) 生産獣医療学、牛、代謝、アニマルウェルフェア、行動、生産性 (落合 謙爾) 獣医病理学、動物疾病、病理発生、ウイルス、腫瘍 (木崎 景一郎) 動物生命科学、総合動物科学、分子細胞生理学 (佐藤 至) 環境衛生学、放射性物質、化学物質、重金属、環境汚染			

<p>(佐藤 洋)</p> <p>薬学、薬理、基礎医学、トキシコロジー、内分泌、実験病理、化学療法</p> <p>(高橋 透)</p> <p>繁殖障害の診断・治療・予防</p> <p>(古市 達哉)</p> <p>動物生命科学、総合動物科学、実験動物学、疾患モデル動物学、発生工学</p> <p>(村上 賢二)</p> <p>微生物学、獣医感染症学、獣医免疫学、病原微生物、ウイルス、動物ウイルス感染症、感染免疫、診断・予防</p> <p>(山本 健久)</p> <p>獣医衛生学、獣医公衆衛生学、獣医疫学、統計、数理モデル、シミュレーション、分子疫学</p> <p>(山崎 真大)</p> <p>小動物内科学、獣医血液病学、原虫病</p> <p>(山本 欣郎)</p> <p>動物生命科学、総合動物科学、神経系比較組織学</p> <p>(寺嶋 淳)</p> <p>農芸化学、基礎医学、社会医学、食品微生物学、細菌学、公衆衛生、食品衛生、予防医学</p> <p>(片山 泰章)</p> <p>獣医外科学、臓器移植、腎臓病学、整形外科学</p> <p>(中牟田 信明)</p> <p>動物生命科学、総合動物科学、感覚器解剖学</p> <p>(山田 慎二)</p> <p>病原微生物、防疫、疾病予防・制御</p> <p>(山田 美鈴)</p> <p>動物生命科学、統合動物科学、ホメオスタシス維持機構</p> <p>(星野 有希)</p> <p>獣医外科学、臨床腫瘍学、軟部組織外科学</p>
<p>テキスト：特になし</p>
<p>参考書・参考資料等：特になし</p>
<p>学生に対する評価：プレゼンテーションの準備に関して抄録・スライド・発表原稿の内容に加え、発表内容の理解度、討論の学術的整合性を主指導教員が評価する。また、実際の海外における国際学会等での発表にあたっては、参加後のレポートを提出させる。以上のことを合わせて総合的に評価する。</p>